

## 火山との暮らし

火山活動は南九州地域を形成し、人々に危険と恩恵をもたらしてきた。火山の力は、この地域の多くの温泉を温め、土壌を豊かにし、美しい火口湖や宝石が散りばめられたビーチを作り出す。その一方で、この地域の住民は、時折降る火山灰や、常に存在する大噴火のリスクに対処しなければならない。

指宿は、世界で最も火山活動が活発な位置している。九州はフィリピンプレートがユーラシアプレートの下に押し込まれている沈み込み帯に位置している。プレートの摩擦と地球のコアからの熱によって、岩盤が溶けてマグマになる。マグマは固体の岩石よりも軽く、上昇し、地殻に山のようなふくらみを作り、時には火山噴火として地表に噴出する。

指宿は、その大部分が約 4 万年前の噴火によって形成された盆地、阿多カルデラの中にある。それ以来、火山活動は地形を形成し続け、小さな火山は押し上げられ、崩壊して池田湖やうなぎ湖のようなカルデラ湖を形成した。カルデラ盆地には活火山が点在し、その中で最も高いのが開聞岳（924m）である。

開聞岳は約 4,400 年前に形成された玄武岩の成層火山で、頂上は安山岩の溶岩ドーム

に覆われている。土壌の記録によると、過去に少なくとも 12 回噴火しており、最も新しい噴火は 885 年である。興味深いことに、噴火によって敷き詰められた火山灰の層は、火砕物の含有量によって黄色、青色、紫色など、それぞれ異なる色をしている。火山灰の地層を歴史的な記録と併用することで、考古学的な遺跡の年代を極めて正確に測定することが可能になる。

開聞岳の噴火は、現代の指宿にもその痕跡を残している。地形が形成されただけでなく、火山の噴火のたびに集落が埋もれたり、住民が追い出されたりして、人々の移動に拍車がかかった。その結果、半島の対岸に近代都市が形成されたのである。また、よりわずかな影響もある。例えば、川尻海岸の砂には、約 3700 年前に火山から放出された黄緑色の結晶が含まれている。

鹿児島市の近くにある桜島は、この地域で最も活発な火山である。定期的に噴煙を上げ、火山灰を降らせる。風向きによっては、約 36 キロ離れた指宿市まで降灰することもある。

鹿児島市の人口約 150 万人にとって、活火山を目の前にして生活し、仕事をするという諸刃の剣は現実の生活の一部となっている。危険は伴うが、桜島火山の近くに活気のある都市が存在していることは、火山がもたらす豊かさの証でもある。